

移住体験も
あなたらしく
自由自在に。

一ヶ月『のぼりべつ』

——地域居住のステップアップ——

日常生活を実感したい方には、利便性の高い市街地のウイークリーやマンスリーの賃貸物件がお勧めです。家具や家電もそろっていますので、気軽にご利用いただけます。

所在地・登別市内各所
料金・一週間 約3万円
一ヶ月 約10万円
形態・集合住宅・戸建て住宅
管理・仲介・有山地不動産企画
中央町5丁目11番地1



温泉天国の『のぼりべつ』ならではの 移住体験をお楽しみください。

温泉のデパート 登別温泉郷

自然湧出量1日約1万トン、源泉温度約45~90℃、硫黄泉や食塩泉、鉄泉、ミョウバン泉など9種もの温泉が湧き出しています。大昔より温泉を薬湯として重宝していたといわれ、江戸時代には、最上徳内が『蝦夷草紙』での存在を記しています。最大の源泉エリア地獄谷は爆裂火口の跡で、直径約450メートルのエリアに数多くの源泉の穴が密集。毎分3,000リットルほどの源泉が湧き出しています。



大湯沼川の天然足湯
大湯沼からの湯があふれ出了た大湯沼川の天然足湯は、野趣あふれる人気の高い温泉です。四季折々の風景の中、心と体を癒すことができます。



温泉保養地 カルルス温泉郷



登別温泉の北西約8キロメートル、高い山々に三方を囲まれた狭い谷あいにあるカルルス温泉は、開湯より100年を超える歴史を誇り、国から北海道で第一号の『国民保養温泉地』に指定されました。カルルスの名称は、チエコスロバキアのカルルスバード（現在は、チエコ共和国のカルロビ・バリ）の泉質に似ていることに由来します。日量1,300トンの勢いで365日絶えることなく流れる苦硝性単純泉で、冷え性失調症や筋肉性頭痛と疲労、ストレス、筋肉痛、関節痛、リウマチ、腰痛、アトピー性皮膚炎などが主な適応症です。



**日帰り入浴を
楽しみましょ**



JCHO登別病院
メタボリックシンドromeや生活習慣病の予防・改善には規則正しい生活リズムとバランスの取れた食事、体力に合わせた運動が大切です。温泉リハビリプールでは一人一人に合わせた水中運動プログラムで健康増進が図れます。

おすすめ体験
JCHO登別病院

温泉療法はこんな方に

おすすめです

- 定期的な運動をしたい方
- 足腰に不安のある方
- メタボリックシンドromeや生活習慣病の予防・改善をしたい方
- 全身のリラックスをしたい方

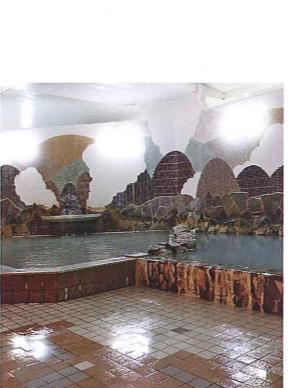


独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) 登別病院
住所: 登別温泉町133番地 電話: 0143-84-2165

一週間『のぼりべつ』

——温泉に入り放題の移住体験施設——

栗林ビルは、登別温泉街の目抜き通り「極楽通り」に面しており、「ちょっと暮らし」をご利用の方は、併設の公衆温泉浴場『さぎり湯』をいつでもご利用いただけます。



名 称：栗林ビル
住 所：登別温泉町60番地

区分	7泊8日料金	8泊以降1泊料金
1室1名	16,100円	2,300円
1室2名	30,100円	4,300円
1室3名	40,600円	5,800円

・小学生800円（1泊）未就学児は無料です。
※料金はすべて1室料金（税込）となります。
間取り 洋室 14畳ワンルーム、キッチン、
ユニットバス
家具等 テレビ、冷蔵庫、洗濯機、暖房機器付き
※寝具はレンタル（1泊1組420円）

季節『のぼりべつ』

——お気に入りの季節を登別で過ごす——

北海道でも比較的温暖で降雪量も少ない登別市は、厳冬期であっても不便なく暮らせます。完全移住を希望する方は、冬季の移住体験をお勧めします。また、秋は紅葉を楽しめ、天候も安定していますのでシーケンステイに最適です。



7泊8日のショートステイから数カ月にわたるロングステイまで、ご希望に合わせたスケジューリングが可能です。また、好みの季節を毎年訪れる「シーズンスタイル」、現在のお住まいと登別の2カ所に居を構えて、二つのまちを自由に楽しむ「二地域居住」など、さまざまなスタイルの移住を楽しめます。



完全移住への『のぼりべつ』

——滞在中の交通手段が選べる——

自家用車はもちろん、バスや電車などの交通機関の利用やレンタカーなど、さまざまな交通手段を使い、移住体験をお楽しみいただけます。市街地を拠点にすると、徒步圏に買い物などの生活施設がそろっていますので、ゆっくりと歩きながら、まちの様子をることができます。

おすすめしたい

ちよつと暮らしだけで遊びましょう。

市民活動に
参加してみましょう。

テーマパークで遊びましょう。

市民プールで滞在中もトレーニング。

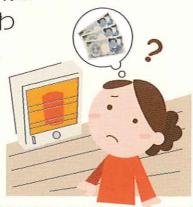
移住 Q&A

移住定住ワンストップ窓口にお気軽にお問い合わせください。



Q. 冬の暖房費はどれくらい掛かりますか?

A. 世帯人数や家の広さ、家屋の断熱性能にもよりますが、灯油ストーブでひと月あたり2~4万円程度掛かります。真夏でもクーラーを必要とすることがなく、一年を通して光熱費を捉えると他の地域と大きく変わりません。



Q. 雪かきはどのくらい必要ですか?

A. 公道は、国や自治体で除雪しますが、私道や家の周りは雪かきが必要です。豪雪ではないので、雪かきはそれほど大変ではありませんが、スノーダンプ（雪かき専用シャベル）で、必要に応じて雪かきをする必要があります。



Q. 冬の生活が心配です。雪下ろしの経験もありません。

A. 真冬でも氷点下10度を下回ることはまれで、雪も少ないので北海道の中では温暖で暮らしやすいです。また、屋根の雪下ろしの心配もほとんどありません。断熱効果の高い屋内はとても暖かく、薄着で過ごす方も多いです。

支笏洞爺国立公園を楽しめましょう。

登別市は支笏洞爺国立公園のほぼ中央に位置しており、洞爺湖や支笏湖へは約1時間圏内。広大な空と緑豊かな大地、ダイナミックな太平洋と自然美あふれる噴火湾の景観。登別市が位置する胆振地方は北海道有数の景勝地であり、それぞれの観光スポットへのアクセスも容易なため、気軽に美しい風景を楽しむことができます。



Q. マイカーは必要ですか?

A. 三大都市圏と比べると公共交通に不便を感じることがありますので、自家用車がある方が便利です。必要なときだけレンタカーを借りるなど、住む場所やライフスタイルによって考えてみるとよいでしょう。



Q. 賃貸住宅や中古住宅を探したいのですが?

A. 市内には住居や事務所、店舗などの賃貸や分譲物件を扱う不動産取引業者が複数あり、最新の物件情報を紹介しています。登別のホームページに市内不動産業者のリンク集がありますのでご活用ください。



Q. 冬にはどんな楽しみがありますか?

A. スキーやスノーボードはもちろん、雪の中を自然観察しながら散策するツアーなど、雪や氷をテーマにしたさまざまなイベントが行われています。



Q. インターネットはつながりますか?

A. 一部を除いて、市内のほぼ全地域でブロードバンドの利用が可能ですが、詳しくは各通信会社へお問い合わせください。



Q. 冬道の運転が不安です。

A. 冬道は慣れていないれば危険なこともあります。スピードを十分に落として、交通ルールを守ることが基本です。悪天候の際は不必要な外出は控えます。運転に自信が持てない方は、自動車学校で実施している冬道運転講習を受けてみるのも良いでしょう。



支笏洞爺国立公園を楽しめましょう。

登別の開拓の歴史や昭和の懐かしい生活用品などを展示する『登別市郷土資料館』や『アイヌ神話集』の著者として知られる知里幸恵の記念館、縄文時代の暮らしや出土品を紹介する『のぼりべつ文化交流館カント・レラ』など、楽しく学べる文化施設巡りもおすすめです。



のぼりべつ文化交流館カント・レラ



登別市郷土資料館

文化施設を訪ねてみましょう。

登別の開拓の歴史や昭和の懐かしい生活用品などを展示する『登別市郷土資料館』や『アイヌ神話集』の著者として知られる知里幸恵の記念館、縄文時代の暮らしや出土品を紹介する『のぼりべつ文化交流館カント・レラ』など、楽しく学べる文化施設巡りもおすすめです。



登別市には約500の市民活動団体があり、スポーツや文化活動の他に『まちづくり』『観光』『福祉』『子育て』『環境保全』『国際交流』など、幅広い分野で市民の方が盛んに活動を行っています。例えば市民活動センター「のぼりん」に登録しているスポーツ・文化活動団体だけでも100を超えます。移住体験中にもチャレンジしたい活動があれば、ぜひご参加ください（受け入れの確認が必要となりますので、事前に移住相談ワンストップ窓口にお問い合わせください）。

世界的にも珍しいヒグマの博物館『のぼりべつクマ牧場』、イルカやペンギンなどの海に生きる哺乳動物や多彩な魚たちが海洋ファンタジーを繰り広げる『登別マリンパークニクス』、広大な敷地に江戸時代の街並みを再現し、当時の人びとの暮らしを紹介する『登別伊達時代村』など、楽しみながら学ぶことができるテーマパークへ出掛けましょう。



写真上 登別マリンパークニクス

写真左上 のぼりべつクマ牧場

写真左 登別伊達時代村



市民プール『らくあ』は、公式の水泳大会が開催できる本格的な競泳プールのほか、水中ウォーキングのコースやゆったりとくつろげるジャグジーもあります。また、最新のトレーニングマシンを備えたジムやさまざまなプログラムが行われるスタジオが併設されています。

JR登別駅前で毎週日曜日に開かれる『登別海鮮直市』を訪ねてみましょう。登別漁港などで水揚げされる海産物が手頃な価格で購入できます。また、市内のスーパーで旬の幸を探してみましょう。お店の方や市民に旬の素材と調理法を聞けば親切に教えてくれます。

地元の商店をのぞいてみましょう。



JR登別駅前で毎週日曜日に開かれる『登別海鮮直市』を訪ねてみましょう。登別漁港などで水揚げされる海産物が手頃な価格で購入できます。また、市内のスーパーで旬の幸を探してみましょう。お店の方や市民に旬の素材と調理法を聞けば親切に教えてくれます。



のぼりべつ 移住生活



のぼりべつの地で家族の笑顔を取り戻し、想像もしていなかつた大きな夢を描き始めた加藤伸明さん。

「人生最大の決断」

幼い頃からの夢を実現し、サラブレッドを養育する厩務員として大井競馬場で働いていた加藤さん。馬好きの縁が実り綾香さんと結婚、長男の聖虎くんも生まれすべてが順調でした。

転機は大きな揺れとともに訪れます。平成23年3月11日に発生した未曾有の大震が、加藤さんとその家族の人生を大きく変えることになります。幸い家族にけがはなく、家屋の損傷もありませんでしたが、2ヵ月前に生まれたばかりの聖虎くんの哺乳瓶が割れ、綾香さんは強いショックを受けます。

余震におびえる二人を北海道の綾香さんの実家に帰省させ、落ち着いた東京へ連れ帰るつもりでいた加藤さんですが、余震は收まらず、食料品や日用品は店から消え、放射能漏れによる健康面での悪影響も心配でした。

「ここに呼び戻すことはできない」、悩み抜いた末に「家族が安心して暮らせるなら北海道で暮らそう」と決意した加藤さん。

一番の不安は仕事です。自分には馬しかないと牧場での仕事を求め、新天地北海道へ向かいます。まさに「人生最大の決断」であったと言います。

希望の光が差したのは義父の一言でした。「登別には馬の育成に最適な高原地がある」と言うのです。義父の支援も受け、札内地区に土地を取得、家族ぐるみで乗馬クラブを経営することになったのです。

「用地取得から開業まで1年掛かりま



加藤さんの指導で、小さな子どもたちも乗馬を楽しんでいます。

garden



ひときわ目を引くオシャレな雰囲気で、海外からの観光客にも人気のカフェ garden。



常連となったオーストラリア人家族との交流も楽しみのひとつ。



カフェレストラン garden by Till
店長 井元 美穂さん
北海道登別市出身

「あたたかい家庭を築きたい」
東京でファッショングランデザインのキャリアを積んでいた井元美穂さんは、ふるさと登別へリターンする道を選択しました。

高校までを登別市で暮らし、札幌の専門学校でデザインを学んだ後、東京のアパレル会社へ就職、デザイナーとしてファッショングランデザインのキャリアを積んでいた美穂さん。「東京はデザイナーとして経験を積むにはとても良い環境でした」と言います。

一方で、あたたかい家庭を築く夢を描いていた彼女にとって、慌ただしい都会は子育てには不向きと感じられました。

キャリアか、家庭か、歩むべき方向に迷う日々が続き、考え方を整理するため登別へ帰郷。ふるさとには、ゆったりとした時間が流れ、懐かしい人たちの笑顔がありました。

帰郷後しばらくして、耕さんと出会います。高校を卒業後、東京の美大で学びクリエイターとして活躍していましたが、華やかな世界で存在感を示すことは、健やかな暮らしと引き換えの日々でもあります。耕さんもまた、東京での多忙な暮らしを見つめ直すため登別へ帰っていました。

ふたりは気持ちが通じ合い結婚。「主人には札幌で仕事をするという考え方があつたようですが、自分が地元の人たちのためにできることがあるのではと思い、登別の人とまちのために、精いっぱい頑張りたい」という気持ちになつたのです」と美穂さんはご主人の心の内を明かしてくれました。耕さんは市内にデザイン会

社を立ち上げ、地元企業の広告宣伝や市のPRを手掛けるなど、デザインを通してふるさとを活性化させる仕事を情熱を注いでいます。

いつの日か、ふたりで楽しく働ける場所を持ちたいと夢を描いていましたが、その日はすぐに訪れます。二人の出会いや出来事が生まれ育つてくれば」と美穂さんは願います。ひときわ目の耕したgarden(庭)で、たくさん街の目抜き通りである極楽通りにデザイン事務所を併設した「カフェ garden」を平成25年6月にオープン。「主人との耕したgarden(庭)で、たくさん出会いや出来事が生まれ育つてくれます。そして、縁や縁というものの大切さを改めて感じる日々であります。

二人にとっての最大の喜びは、長男の晴くんが誕生したことです。晴くんが生まれたことで、美穂さんと耕さんは、パートナーから家族になつたのだと感じています。そして、縁や縁というものの大切さを改めて感じる日々であります。

晴もいつか遠くで暮らす日がくるでしょう。いつでもあたたかく迎え入れてくれるふるさと登別を、次世代につなげていきたい」と美穂さんは笑顔で語ります。



誰もがふっと立ち寄ってしまう開放的な雰囲気のカフェ garden



北の大地で乗馬を初体験したいと、年間約2,000人もの乗馬客が遊駿を訪れます。

スの整備、すべて手づくりです。お客様を迎えるクレープハウス以外は自作で、溶接や木工など、道具さえ見たことのない作業に、当初は戸惑いもありました。

「一番苦労したのは、人を落馬させない馬を開業までに育てることです」。一頭につき毎日数時間の訓練が必要で、綾香さんと義父も訓練に参加し、まさに家族ぐるみで3頭の馬を育成しました。

苦労のかいがあり、予定通り平成24年6月に開業。順調にクラブ会員を増やし、今では国内外から年間二千人近くの乗馬客が来場するほどのにぎわいです。

「自然豊かな公園のようなまちで、育てができることは、私たち夫婦にとって最大の喜びです」と語る加藤さん。さらに、サラブレッドを生み育てレースに送り込むという、首都圏暮らしでは実現困難な夢も描きはじめています。



登別ホースパーク遊駿
場長 加藤 伸明さん
神奈川県川崎市出身